小＝小学部児童　中＝中学部生徒　高＝高等部生徒　教＝教員　保＝保護者
A＝達成できた　B＝ほぼ達成できた　C=あまり達成できていない

# 令和４年度　福島県立須賀川支援学校本校　学校経営・運営ビジョン　最終評価

## 校　訓
健康・友愛・感謝

## 教　育　目　標
○ 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。
○ 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。
○ 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

## 学　校　像
・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校
・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校
・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

## 児 童 生 徒 像
・明るく　　強く　生きる人
・自ら学び　考える人
・心豊かで　思いやりのある人

## 教　員　像
・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員
・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員
・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

## ＜ 今年度の努力目標 ＞
児童生徒の生涯を通じたよりよい生活の実現に向けて、一人一人の病状や障がいの特性等に応じた指導の一層の充実を図るために、ＩＣＴ機器を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、指導と評価の一体化に基づく授業づくりに努める。

### 小学部
□スタッフ会や授業者間の話し合いでは、指導の成果と課題や学習評価を共有し、それらを生かして個々に適した支援に当たることができた。
□グループ研修を通して、児童の課題やねらいに即したＩＣＴ機器の効果的な活用について検討し、授業に生かすことができ、日々の授業における活用が進んだ。

### 中学部
□スタッフ会や授業者間における話合い等を充実させ、評価の観点や支援方法の共有化に努めた。
□リモートによる宿泊学習や交流活動への参加など、ＩＣＴ機器を活用した授業実践を充実させることができた。
□個別の指導計画等を活用した、より一層の学習評価の充実に努めたい。

### 高等部
□より効果的な指導のために、常に情報を共有し、状況に応じた指導体制を組みながらチームで対応することができた。
□授業におけるＩＣＴの活用を積極的に進め、わかりやすくより深い学びにつながる授業づくりに努めた。

各種計画　目標

学部目標・学級目標

入学

転入出

卒業

小学部

中学部

高等部

## 健康　体
明るく　強く　生きる人
病気を理解し、健やかな体の育成をめざします
〇健康・安全生活の充実　小:A　中:A　高:A　教:A　保:A
〇体育・健康に関する指導の充実　小:A　中:A　高:A　教:A　保:A

## 友愛　知
自ら学び　考える人
教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします
〇学力の向上　小:B　中:B　高:B　教:B　保:A
〇病弱教育の専門性の向上　教:A

## 感謝　徳
心豊かで　思いやりのある人
豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします
〇キャリア教育の充実　小:B　中:A　高:B　教:A　保:A
〇道徳教育や交流及び共同学習の充実　小:A　中:A　高:A　教:A　保:A

### 保健部　学校保健委員会
□「性に関する指導研修会」を実施し、グループ協議では事例をもとに具体的なかかわり方や指導について意見交換を行うことができた。
□「食育コンクール」を実施し、地場産物を使った調理に家族と取り組むことで食に関心をもつことができた。
□それぞれの校舎で基本的な感染症対策を行い、物品の補充や管理など校内環境の整備に務めた。

### 生徒指導部
□「携帯安全教室」を実施し、ネット上での円滑なコミュニケーションに必要な要素や注意点について理解を深めることができた。
□「学校生活安全安心標語コンクール」を新たに実施し、交通安全や安心安全な学校生活への意識を高めることができた。

### 教務部
□ICT の活用に関する成果と課題を年間指導計画に記録したり、情報活用能力全体計画を作成したりすることで単元・題材に応じた意図的な ICT 機器の活用について整理することができた。
□各種計画の活用方法や様式の改善について繰り返し検討を重ねることで、指導と評価の一体化の充実を図ることができた。

### 研修部
□グループ研修を通じて ICT 活用の意図を明確にした授業づくりを行ったり、その成果を発表し合ったりすることで、ICT を効果的に活用する実践力を全教員で高め合うことができた。
□講師を招聘した校内研修会を３回実施し、病弱教育における ICT の効果的な活用について知識を深め、グループの研究授業や日頃の授業実践に生かすことができた。

### 情報教育部
□全職員対象に AAC（補助代替コミュニケーション）や AT（アクティブテクノロジー）の考え方を伝達することができた。
□多様な学びや深い学び合いのための手段として ICT 機器を利活用することができた。

### 小学部
□阿武隈小との交流では、作品交換などの間接的な交流ではあったが、直接届けてやりとりの機会を設けることで、お互いを知り、相互の意識を高めることができた。
□中学部の教科学習や弁論大会などの学部行事に参加・見学することで、中学部生活の具体的なイメージをもち、教師と一緒に自分自身の生活について振り返ることができた。

### 中学部
□校内実習や職場体験、進学希望学校の見学や体験を通して、生徒個々が自分の進路について考えることができた。
□高齢者施設や小塩江中学校との交流は、相互理解が深まり、企画から運営まで生徒主体の活動となってきた。

### 高等部
□「職業と生活」や「自立活動」等を通して、現在の自分と向き合い、これからの自分に必要なことについて考える機会を設定し、生徒の理解を促すことができた。
□作業製品や清掃活動による地域への貢献活動や、ＩＣＴを活用した他校との交流学習などを通して、他者を思いやる気持ちの育成に取り組んだ。

### 進路指導部
□産業現場等における実習を通して、働くために必要な基本的な力を知り、他者評価を通して自己理解を深めることができた。
□進路先の形態別に「福祉相談会」「職業相談会」「職場見学会」を実施したことで、卒業後かかわる相談機関についての情報を得たり、進路を適切に考え選択していく力を養ったりすることができた。

### 地域支援センター
セ ン タ ー 的 機 能 の 充 実　～ 地域のニーズに応じた相談・支援の充実をめざします ～

【相談・研修】（1 月末）来校相談件数：３７件　出かける相談支援：５６件　　研修支援：５件
地域支援アドバイザーを中心に各関係機関との連携が構築され、子ども園等では、個別の指導計画、記録等を活用し、継続的な相談支援を行った。保健師、保護者同席でのケース会議を開催した。県立高等学校での研修会を２件開催し、特別な支援が必要な生徒の指導についての理解・啓発を行った。
【特別支援教育研修会】地域のニーズが非常に高い、心の病気に関するオンライン研修会を行った。県下７０ヶ所に接続し、計１０４人の参加となった。